



多忙化解消と 教育条件の整備を

各市町教委と校長会への要請

多忙化解消と労安体制の確立、そして教育条件の整備の必要性が強まる中、尾北教労は、7月に各市町教委と管内校長会への前期要請を行いました。そこで示された各市町の状況や取り組みについての要旨を紹介いたします。そして、今後望まれる方向性について、ともに考えたいと思います。

スクールソーシャルワーカー

心の相談

いじめや不登校、そして貧困問題への対応として、組合では、心の相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの配置を要請しています。心の相談員については、すでに配置されている江南市や岩倉市に続き、大口町でも1名配置されました。

また、スクールソーシャルワーカーは、すでに配置されている江南市や扶桑町に続き、岩倉市でも配置されました。犬山市でも、来年度に向け、配置が検討されています。配置された市町では、家庭の問題を抱えた子どもに関して、スクールソーシャルワーカーが、さまざまな関係機関と連絡をとって対応し、担当が抱え

通級指導教室 増える

こまめに済むのでとても好評です。さらなる配置と拡充が求められています。

通級指導教室

通常学級に在籍している学習障害や情緒障害などを抱えた子どもへの対応として、取り出しで指導できる通級指導教室の設置が求められており、県教委への要請が毎年多く寄せられています。尾北では、毎年のように拡充されています。今年度は、新たに、犬山市で1名(小学校2校対応)、扶桑町で1名(中学校2校対応)配置されました。ただ、担当教員が複数の学校を掛け持ちで対応している状況が見られますので、今後は、各学校に専属で加配されるよう、さらなる拡充が求められています。

朝部活の 中止

中学校の多忙化解消の大きな課題として、部活動の見直しが行われています。全国的にも改善が進められています。尾北でも、練習日や練習時間を見直し、教員にとっても生徒にとっても無理のない部活動に向け、改善が進められています。

部活動の改善では、特に、朝部活の中止が大きな課題になっています。犬山市では、昨年度から朝部活を中止する方向が示され、今年度は、行われていません。

朝部活をなくした中学校では「生徒も教師も表情が明るくなった」「朝部活をしていたところは、休むと選手になれないから、朝ご飯を食べずに部活に来る生徒も見られたが、今は、ゆとりをもって生活できている」など、さまざまな面からその効果を指摘する声が聞かれています。

尾北の他の市町でも、朝部活を減らす動きが見られており、当面、朝部活の中止に向け、さらなる改善が求められています。

少人数学級継続 犬山市

犬山市は、市独自で常勤講師を雇って担任を増やし、小学校の全学年で少人数学級(34人以下)を実現しています。

多くの教職員や保護者が強く願っているのに、国や県が取り組もうとせず、やむをえず市町独自で実施しており、尾北では犬山市だけです。

少人数学級は、全ての子どもへのゆきとどいた教育のためには最重要課題です。同時に、教職員にとっての多忙化解消にもつながります。学級の人数が減ることで、ノートやプリントを短時間でみることで、子どもたちの活動も把握しやすく、子どもも教員も、心身両面でストレスから解放されます。

犬山市の小学校では、少人数学級のための担任確保に向け、市の常勤講師に加え、多くの学校では、校務主任も担任を担っています。

今後の方向性について、教育長からは「少人数学級は継続して実施していく。その上で、校務主任が担任を持たなくてもいいようにしていきたい」と見解が示されました。「教育に穴があく」問題が全国で指摘されている中、フリーの立場の先生の必要性が増しているのも現実です。

少人数学級の継続実施を第一に考え、その上で、市の常勤講師を増やすなどにより、可能な範囲で、校務主任が担任を持たずに済む学校が増えることが望まれます。

コミュニティ・ スクール

「コミュニティ・スクールが江南市の全区で実施されています。

文科省が進めているコミュニティ・スクールは、地域の代表者を交えた「学校運営協議会」が設置され、学校運営(人事も含む)に関わることもそこで決めることができ、決まったことは全職員が従うというものです。しかし、地域との取

の組みが新たに増えるなど、職員の多忙化に拍車がかかるのではないかと、さまざまな不安や問題点が指摘されています。

江南市教委は「あくまで学校を支援してもらったために行う。新たな取り組みを増やすつもりはない」と、見解を示しています。

江南市に続き、扶桑町でも今後、「コミュニティ・スクールを全学区で実施することが町教委から示されました。目的は、江南市と同様に「学校を支援してもらう体制をつくりたい」ということです。

組合としては、「コミュニティ・スクールそのものの問題点を指摘し、教職員の負担につながらないよう要請しました。

変形労働時間制

問題あり

文科省が提示している「1年単位の変形労働時間制」は、在校時間記録表の時間外勤務の数字を減らすだけで、実際には、多忙化をさらに進め、退勤時間を今より遅くし、教員の健康・生活・家庭に弊害を及ぼす恐れがあるものです。

この制度の導入に関しては、各市町にその判断が委ねられており、組合として、導入しないよう要請を行いました。

各市町教委からは「導入するつもりはない」「今後検討していく」といった返答が聞かれ、導入する意思を示した市町はありませんでした。

変形労働時間制の導入でなく、多忙化解消に向けてのさらなる改善を進めたいものです。

在校時間

正確な記録を

在校時間記録表への記録の簡素化に向け、尾北では、ICカードやタイムカード、あるいは、各職員のパソコンの起動・シャットダウン時の時刻自動記録（在校時間記録表へ）といった改善が進められています。

一方、学校によっては「管理職が帰ると、タイムカードを押して、そのまま仕事をすする」「休日に出勤しても、管理職自らが出勤記録をしないから、他の職員もしない」など、勤務時間が正確に記録されていない実態が見られます。

その背景には、毎年6月と11月の県教委への在校時間記録の結果報告に関して、「今月は、県教委に報告することになっているので、くれぐれもお願ひします」といった指示が管理職からなされるといったことがあります。

さらには、県教委からの結果報告の時間外勤務の時間数が多いと、それが「はずかしいこと」のように感じたりすることもあるようです。

そういった状況を背景に、管理職を含めた職員による在校時間の虚偽報告の問題が生じています。

勤務時間を正確に把握することは、教職員の健康と権利を守る上で、最も重要なこととです。万が一、過労で倒れたり、体調を崩して入院になったりした場合、必ず問題になるのは、それまでの勤務がどうだったかということです。その際に重要な証拠となるのが在校時間記録です。

また、在校時間記録の結果は、勤務の実

態を率直に表すもので、もし、時間外勤務が多かったら、記録表の数字が問題ではなく、勤務の内容の見直しが大事になってきます。

県教委からの結果報告の一覧を見ると、時間外勤務が多い市町もありますが、実態を正確に把握して、県に報告しているという点では信頼できると言えます。

在校時間の正確な記録に向け、各職場の実態を冷静に見つめ直すことが求められています。

担任の持ち時間数 軽減を

「勤務時間内に仕事を終えられるようにしたい」というのは、多くの教職員の願いです。そのためには、持ち時間を減らすことも重要な課題です。特に、学級担任は心身ともに負担が多く、少しでも持ち時間を減らし、実務時間（空き時間）を確保することが求められています。

多くの学校では、教頭・教務・校務が、図工・理科・社会・書写などを、評価を含め単独で担い、学級担任の空き時間を確保しています。

しかし、学校によっては、教頭・教務・校務が、T・Tや少人数授業に入り、学級担任の空き時間確保につながっていない状況も見られます。

さらには、教頭の持ち時間が、0時間という学校もあります。

組合では、当面、小学校25時間以内（1日1時間以上の実務時間《空き時間》確保）。中学校20時間以内（1日2時間以上

の実務時間《空き時間》確保）となるよう改善を進めることを要請しています。自分の学校の現状を見つめ直し、子どもや保護者に日々直接関わる学級担任を助ける職場にしていきたいものです。

同時に、少人数学級・教職員の定数増・専科教員の拡充など、学校や教職員を救う施策を国や県が講じるよう、強く要請していく必要があります。

駐車料金 全額減免を

江南市と扶桑町で行われている駐車料金徴収は、毎年のように多くの教職員から不満の声が聞かれます。

一方、今年度から、大口町でも駐車料金が徴収されることになりました。しかし、同時に、全額減免の措置がとられ、実際には、自己負担は0円です。この方式は、実は、瀬戸市や春日井市でも行われています。

交通不便で、荷物が多い中、車で通勤せざるを得ない実情や、出張・家庭訪問・生徒指導など、仕事で自分の車を使うことがある実態を考慮すれば、全額減免はやはり必然のことだと言えます。

江南市や扶桑町でも全額減免にするこ

★市町教委と校長会への要請書の全文は、尾北教労のホームページからご覧になれます。（「尾北教労」で検索）
職場で困ったことなども、ホームページのメール等でご相談ください。